

2022年度 3年次編入学選抜 「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）		面接	専門試験 作品 利用
	狙い・意図			
日本画	個々の実力の差を見つげるために、動きのあるポーズ、ラインコードがつく雨の表情、モデルの風情をどのように自分の中へ汲み取り表現できるのかを重視して出題しました。		持参作品の解説、多摩美に入学したらどのような作品づくりをしていきたいか、自主的に話すことができるかを重視しました。	●
油画			提出した作品が、該当学年に相当する技術力、表現力を持っているか。大学編入後のヴィジョンはあるか。普段どのような意図で制作しているか。本学油画専攻を選んだ理由が明確かどうかなど、総合的に判断して採点を行った。	×
版画			提出作品やポートフォリオのプレゼンテーションと専任教員との質疑応答の中で、以下の点をポイントとして評価しています。 (本年度は1名 20分で実施) ・基礎的な表現力があるか ・制作意欲があるか ・独自の視点を持っているか ・版画を志望する理由があるか	×
彫刻	作品と作品ファイルのみで審査するため、用意された質問(美術以外の関心・最近見た展覧会について・多摩美を選んだ理由・将来の展望)などに加え、気がついた教員が適宜作品について追加質問をした。ここでも基本的には「入学後にどれだけ伸びるか?」が審査の基準である。			●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。同時に、実技試験を終った感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を確認したい。また、面接の受け答えと小論文によって、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィックデザイン	・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか		・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による描写力、色彩・構成力の基礎的造形力の評価	×
プロダクトデザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか		・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン	・理解力 問題を把握し意図を理解しているか ・観察力 対象に向き合い細部まで丁寧に観察しているか ・発想力 対象の観察から自由に発想し、優れた画面構成をデザインできているか ・色彩表現力 モチーフの観察から抽出した色を中心に、優れた配色がなされ表現できているか ・個性 出題にたいして積極的に取り組み、自由に発想し独創的に表現しているか		・本専攻3年次に相当する実技力があるか ・本専攻の特徴を理解し大学を変更する志望理由を明確に述べることができるか ・大学を変更する目的に説得力があるか ・授業への取り組みの熱意、意欲、適応力があるか ・持参作品に造形力、色彩表現力、独創性があるか ・将来にどのようなビジョンをもっているか	●
環境デザイン	本学科の2年生と同等の基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		大学を棄てて学ぶ理由が、はっきりしているか。今までの2年間ですんだものを的確にプレゼンテーションできるか。本学の授業を理解できるだけの専門的な知識が備わっているか。	●
情報デザイン メディア芸術コース	限られた試験時間の中で、その場で発想力や構成力と、基本的な描写力を総合して評価する。本年度は「手」と「透明アクリルキューブ」の対比(身体と人工物)をどのように表現しているかが出題のねらいである。この対比に着目したアイデアや構図の斬新さがあるか? 質感の違いが描き分けられているか? モチーフとして配布した4cm幅の透明アクリル立方体のサイズを正確に描かれているか? アクリルキューブから透過して見える複雑な反射や歪みなどの表現も評価のポイントにした。		何故メディア芸術コースを選択したのか?入学後にどのような事を学び、どのような創作をしたいのか? 卒業後に希望している目標など、明確な自分の意思を持ち、それを言語化して質疑応答が出来るかという点がポイントとなる。	×
情報デザイン 情報デザインコース			面接のポイント 1. 作品が学部2年次終了レベルの品質であるか 2. 作品のプレゼンテーション力、対話・コミュニケーション力は的確か 3. 入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか 4. 卒業後、デザインに対するヴィジョンがあるか	×
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるのにふさわしい能力があるかという点が判断基準になります。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。		芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、卒業論文で何を書きたいか、将来の展望等を質問し判定します。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握・理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点=対象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか		・入学志望理由が明確であるか ・専攻科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	身体表現: 歩き/ジョギング/音楽と一緒に即興的に動く、3つの項目を実施。 身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取り、指示を基にして何らか実践することができているかを見た。 聞こえてきた音楽を、自分なりの身体的な感覚で受け取る試みができるかどうかを見た。 演劇: 1. キーワードによる言語を用いない短い身体表現で、発想力、同様の条件下での他者との協調性、集団での表現力を見た。 2. テキストに書かれたダイアログを読む。対話形式の表現能力と感性、表現の幅を見た。 3. テキストに書かれたモノログを読む。 声量や息継ぎなどを確認すると同時に、求められたことに対しての各自の対応力を見た。 4. 全員で一つのテキストを用いたシーンを創作し発表する。観られた時間の中でどの様な発想をもち、他者と合意形成を成すか、集団創造におけるコミュニケーション能力を見た。 舞踊、演劇いずれにおいても3年次の授業に対応できる高い能力をすでに持っているかを重点的に見た。		・現在の大学、学部、学科を離れて本学科を志望する動機と、大学の中でも多摩美を目指す意志。 ・実技試験の感想。仮に編入した場合、授業に対応できるのか。 ・演劇、舞踊いずれのコースを志望するのか、またその理由について。これまでに学んできたことについて、また本学科でそれかどのように生かされるか。 ・本学科を修了した場合の自身の活動の展望について。	×
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	単に置かれたモチーフを観察し正確にデッサンするだけではありません。基礎的なデッサンと共に、自由な発想と構図で、独創性や構成力を見ることがねらいます。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。今回は、コピー・タイムを想定させるモチーフが出題されています。そこから発想した個性豊かな表現を期待しています。近年、大胆な構図や独自の発想が増加しています。しかし素材感を表現できていないもの、雑な描き方の回答は評価が低くなります。光の捉え方(陰影の表現)は重要なポイントとなります。		面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したものまで幅広いラインナップが望まれます。作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来るかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができるかも重要な要素です。3年次編入相当の実技力と専門能力を有しているか、ゼミ授業への希望が明確かを判断します。作品面接では、提出された修得単位資料では判断しかねる、基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となります。	●

全学科共通小論文

問「作品と解釈」について、あなたの考えを述べなさい。(800字程度)

たとえばマルセル・デュシャンの「泉」(1917年)以後のモダンアートは、古典芸術のように「美を鑑賞するもの」から「作品を解釈するもの」へと大きく転換しました。つまり20世紀になってから、美的であることよりも、その作品の「コンセプト」の方が重視されるようになったのです。この動向はコンセプチュアル・アートへと至るわけですが、こうした19世紀末から20世紀のモダニズム以後の芸術の捉え方の大きな転換を、編入によって新しいジャンルに挑戦する転換期の学生に問いかけたのが、ここでの狙いです。